

令和5年度 第1回経営協議会 議事録

日 時：令和5年6月28日（水）10：00～11：25

出席者：稲永議長（理事長）、浅田委員（学長）、井上委員（専務理事）、森委員（理事）、金子委員、徳永委員、渋沢委員、橋本委員（副学長）、岩重委員（副学長）、大塚委員（副学長）、松崎委員（副学長）
光石監事、秋山監事

場 所：長崎県立大学佐世保校第1会議室・第2会議室

○配付資料

【資料1-1】令和4事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間（平成29～令和4事業年度）に係る業務の実績に関する報告書（案）

【資料1-2】実績報告書抜粋版

【資料1-3】第3期中期計画・年度計画の評価基準

【資料1-4】令和4事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間（平成29～令和4事業年度）に係る業務の実績に関する報告書（資料編）（案）

【資料2-1】令和4事業年度 財務諸表（案）

【資料2-2】令和4事業年度 財務諸表（案）の概要

【資料2-3】令和4事業年度 決算報告書（案）

【資料2-4】令和4事業年度 事業報告書（案）

【資料2-5】当期総利益について

【資料2-6】独立監査人及び監事監査報告書

【資料 3】長崎県立大学の現況について

○議 事

【審議事項】

- (1) 令和4事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）について
- (2) 令和4事業年度決算（案）について

【報告事項】

- (1) 長崎県立大学の現況について

【審議事項（１）】 令和４事業年度に係る業務の実績及び第３期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）について

事務局より資料 1-1～資料 1-4に基づき説明を行い、案のとおり了承された。

令和４事業年度に係る業務の実績及び第３期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書については、本案により、長崎県に提出することとする。

（主な質疑等）

委 員）県内就職に関しては、大学の努力のみならず、受け入れる民間側の努力や大学との連携が必要と考えている。地元経済団体に対し、長崎県知事と労働局から、働きやすい職場を目指してほしいとの要望もあっている。

委 員）学生のＵターン志望率が少し上向きになっている。物価上昇等の影響もあり、早い段階から地元企業の魅力をアプローチすれば、就職先の選択肢に入る可能性も十分にあると思われる。

事務局）大学と企業が情報交換を密にして、学生が県内就職も視野に入れるような状況を作ってまいりたい。

【審議事項（２）】 令和４事業年度決算(案)について

事務局より資料 2-1 及び資料 2-6 に基づき説明を行い、案のとおり承認された。

令和４事業年度の財務諸表等については、本案により、長崎県に提出することとする。

（主な質疑等）

監 事）教育研究充実積立金の用途について、情報セキュリティといえは長崎県立大学といわれるように、中・長期的な観点からの検討をお願いしたい。

事務局）教育研究充実積立金については、研究や地域貢献に資するもの、そして教育に充当できるよう、検討してまいりたい。

【報告事項（１）】 長崎県立大学の現況について

事務局より資料 3 に基づき、本学の職員・学生数、就職状況、県内就職率等の現況について、説明を行った。また、令和５年３月１３日に開催された経営協議会において、委員から要望のあった件について、大学の対応状況の報告を行った。

（主な質疑等）

委 員）資料 3 の P4、長崎県立大学の就職状況について、就職を希望しない者 71 名の内訳がわかれば、説明いただきたい。

事務局）就職を希望しない者 71 名のうち、大学院進学者が 38 名、次年度公務員受験者が 10 名、残りは就職を希望しない、またはアルバイトという状況。

委 員）就職を希望しない者については、大学院進学者等を区別して、適切に表示

してほしい。

【その他】

・県内就職率をあげるために、どのような対策を講じているか。

→大学内に県内就職向上プロジェクトチームを立ち上げ、今年度もすでに開催している。県立大学として、県内の就職先についての情報を学生に早い時期から伝えるために、就職先との出会いの場・機会を増やす、また時期を早めていくこと、専任職員を配置し、就職先の開拓にも力を入れていくこととしている。

・「しまなび」プログラムは評価が高いが、学生の社会進出にどの程度貢献するのか。

→「しまなび」プログラムが直接、どの程度地元就職につながっているかは測りにくいですが、地元に着した活動、また実践的な活動であることから、学生からも高等学校からの評価も高い。ここ数年はコロナ渦で実施できていなかったが、今年度からは再開するべく準備を行っている。今後の安定的・持続的な実施のあり方については、検討する必要があるが、本大学の大きな特色であり、魅力の一つでもあるため、引き続き実施していきたい。

・県外の学生も多いが、県外に就職するのか。県内の企業を希望しない主な理由は、賃金が安い・業種が合わないなど、根本的なところもある。そういったところにもどのように対応していけばいいのか、県内の就職率もなかなか上がらないと思われる。

・学生が地元就職を選ばない理由は、魅力的な企業がない・給与水準が合わない、また産休・育休から復職する際の待遇の水準が低いと見ているケースもある。今年の県内企業での採用充足率は非常に低いと聞いている。観光業・宿泊業での採用意欲が顕著になっており、各地域で特に語学が堪能な人の採用ニーズが高まると思われる。長崎県立大学においても、語学堪能な学生がいるため、企業と結び付けられるように夏・秋・冬ぐらいにインターンシップをするのもいいのでは。

→各業界との意見交換も行っており、企業と学生のマッチングについて、今後さらに力を入れていきたい。

本学で英語を学ぶ学生の県内就職率は低い傾向にあったが、昨年7月から県内就職支援員を配置し、県内企業の中でグローバル展開を考えている企業の掘り起こしをして、学生に紹介するという取組みも進めている。また、県内出身の学生に対する県内企業の魅力のPRや、県内出身の学生を増やすための取組みにも引き続き力を入れていきたい。

県内就職向上のため、各学科においても就職先の開拓や地元企業を知る機会の提供、早い時期から地元に着した活動を行うなど、継続的な取組みを続けており、徐々に県内就職率が上がってきている。今後もこういった取組みを続けていきたい。

以 上